

ヒルトン小樽労働組合の組合員及びヒルトン連合会の皆様へ

1999年7月9日、ヒルトン連合会5番目の単位組合として、ヒルトン小樽インターナショナル労働組合は結成して以来、今期で6年間活動を続けてまいりました。しかし、この度のヒルトン小樽株式会社からイシホテルズグループへの経営譲渡を機に、2005年5月23日に行なわれる臨時大会での全組合員による投票（組合規約：第28条）を持って同月末に解散をすることに決定いたしました。

経営母体が代わるとは云え、この先も活動を続けていくという選択肢もありましたが、これまで運営委託契約を結んでいたヒルトンインターナショナル社は、今後フランチャイズ契約に代わることとなり、連合会傘下の単組として活動してきた我々としては、今まで行なってきた組織運営自体を根本から代えていかななくてはなりません。

結成当初、90名を越える組合員を有した労働組合でしたが、その後のマイカルの破綻に伴う会社の経営不振による組合員の退職と、無い袖は振れぬ会社に対して強い要求を打ち出せずにいたこともあり、一時は10名までその数を減らすことになりました。その後、全組合員の協力の下で徐々に組織率を上げる努力はして参りました。また、昨年にはヒルトン連合会に加えて、サービス・ツーリズム産業労働組合連合会にも加盟し、更なる発展を目指してまいりました。しかし、現行の執行部の力不足もあり、現在20名強の従業員による組合活動を続けておりました。

今後、新会社へと経営、及び運営が代わることは、我々の交渉相手も今までとは代わることになり、現状の組織では飛躍的な活動は到底望めるものではありません。また、組合結成時から現在に至るまで、ヒルトン連合会にはヒルトン小樽労働組合の組織支援をお願いし続けており、今まで以上の難題を抱えることが確実な中で、この先更なる支援を受けたとしても、組合組織の回復は非常に難しいと判断し、我々執行部では、自発的解散の道を選択いたしました。

6年前の結成以来これまでの活動の中で、多くの先輩方の惜しみない協力と、過去この組合に携わっていただいた方達、心を一つに活動を続けてくれた全組合員のことを思うと、今回こうして涙を吞まざるを得ない結果になってしまい、非常に心苦しくお詫びの言葉もございません。

また、これまで皆様から頂きましたご厚情に対しては、心よりお礼申し上げます。

6年間ありがとうございました。

2005年5月23日

ヒルトン小樽インターナショナル労働組合 執行委員長 千葉 充
書記長 成田 学